謹賀新年

新年のご挨拶

「辛丑（かのとうし）～大きな希望が芽生える年に」

あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新年を、ご家族お揃いで健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。日頃から町政に対しまして温かいご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

今年の干支は「辛丑（かのとうし）」、十二支は「丑（うし）」となります。「辛」と「丑」は相生（そうじょう）の関係にあり、相手の力を生かし強め合う関係をいい、緩やかな衰退、痛みを伴う幕引きと、新たな命の息吹が互いを生かし合い、強め合うことを意味します。辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になるといわれています。

今年は安八町にとって、陸上競技3段飛びならばジャンプの年です。ホップとなる安八スマートICの建設、ステップとなるスマートIC周辺の市街化区域の拡大を経て、最後のジャンプとなる企業誘致へと飛躍を開始する年になります。これからが正念場となりますが、しっかりと着地をさせ、安八町の未来を支える若者や子どもたちに豊かな町を引き継いでいきます。

昨年、新型コロナウイルスによりこんなにも世の中が塗り替えられてしまうとは誰もが想像出来ませんでした。しかし、人類は、長い歴史の中で疫病の世界的流行（パンデミック）と幾度も戦ってきました。

100年ほど前、世界で5千万人、日本で38万人の死者を出し、全人口の30％近くが感染したとされる、史上最悪のインフルエンザ「スペイン風邪」。当時は第一次世界大戦の最中。米国で発生したウイルスが、米兵によって欧州戦線へ運ばれ、たちまち連合軍の英、仏兵にも広がり、さらに敵の独軍をも苦しめました。

戦時下とあって各国とも徹底した情報統制をし、感染をひた隠しにしました。ウイルスの次の標的は、何も知らされていない市民たち。無防備な市民はひとたまりもなく、やがて世界が瞬く間に蹂躙（じゅうりん）されていきました。「震源地」でもないスペインの名が付いたのは、この国が参戦せず、感染を隠さなかったからといわれています。

「災い」と「禍（わざわい）」は同じ読みになりますが、「災」は地震や台風など阻止できない自然災害に使いますが、「禍」は人々の努力や工夫などによって防ぐことができる場合に用いられます。

有効なワクチンや治療薬がない状況下で、予防法はマスク着用や消毒、手洗いの励行など、当時と変わらぬ古典的な方法しかありません。大切なのは、正しく恐れること、国民一人ひとりがいかに危機感を共有出来るかが肝要と考えます。

本年が、禍を克服して日本全体が明るく、躍動感溢（あふ）れる年になりますことを祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

安八町長
堀　正